

平成27年度 第2回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成28年2月24日（水） 第2回帯広市健康生活支援審議会終了後
19:50～20:20

2. 場 所 帯広市役所 10階 第3会議室

3. 出席委員 稲葉秀一部会長、小林靖副部会長、菊池英明委員、宇野雅樹委員
太田郁夫委員、川上義史専門委員、若田部紀代子専門委員、

4. 会議次第

- (1) 前回会議の議事録（案）の確認
- (2) 平成28年度健康推進課関係予算（案）について
- (3) その他

5. 会議内容

○事務局

それでは、まだ早いのですが、皆さんお揃いになりましたので、ただ今から、平成27年度第2回の地域医療推進部会を開会させていただきたいと思っております。

本日の委員の出席は、地域医療推進部会委員9名中、7名の方にご出席をいただいておりますこと、出席人数が委員の過半数に達していますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○部会長

それでは、会議に入らせていただきます。最初に、(1)の前回会議の議事録の確認についてということになりますけれども、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。議事録につきまして、何かみなさんご質問やご意見があればお受けいたしますけれども、よろしいでしょうか。

○委員

私の名前、間違っています。

○事務局

大変失礼いたしました。修正いたします。

○部会長

後いかがでしょうか。他になければ、ただいまの太田委員の名前を修正することで議事録は了承されたものといたします。

次に、(2)の平成28年度健康推進関係予算案についてを議題といたします。事務局から、説明よろしくお願いいたします。

○事務局

平成28年度の健康推進課関係予算案につきまして、説明させていただきます。資料は1と2になりますが、始めに資料1をご覧ください。すみませんが、今机の上にあります、予算資料なんです、大変申し訳ありません総事業費の桁が一桁間違っておりましたので、差し替えをお願いします。

○事務局

12億が1億2千万になっておりますので。

○事務局

平成28年度の健康推進課予算の概要であります。総事業費は、12億4万1千円であります。内訳といたしましては、左上に、記載してありますように保健衛生総務費が3億3千585万4千円、そのうち、主なものでは、保健衛生推進費が1千169万1千円、公衆浴場対策費が1千231万5千円、看護師等養成機関確保対策費が1千8百24万2千円、帯広厚生病院運営費補助事業費が2億1千万円、介護老人保健施設整備補助事業費が1千4万9千円、となっております。

続きまして、右側に行きまして、予防費は、総額で5億3千136万4千円となっており、主なものとしては、がん検診・健康診査費が、1億3千836万2千円、予防接種費が、2億9千741万1千円、感染症予防費が、7千972万3千円 となっております。

続きまして、左下に行きまして、保健福祉センター費は、保健福祉センターの管理に要します経費で4千576万円を計上しております。

最後に、右下になります。夜間急病診療費で、2億8千706万3千円となっております。内訳といたしましては、休日夜間急病センターの管理運営費が、2億2千76万4千円、在宅当番や二次救急医療など、救急医療対策費が6千629万9千円となっております。

続きまして、資料2、平成28年度 健康推進課関係予算及び主な事業であります。左側に、平成24年度からの27年度までの5年間の予算額と対前年度の増減額の推移を記載しております。

左下の「折れ線グラフ」の各年度の増減を見ていただきますと、一番上の線が、合計額ですが、平成25年度は夜間急病センター改築費による大幅な増と、ヒブ、小児肺炎球菌、子宮頸がん予防ワクチンの定期接種化による増となっております。

平成26年度は全国健康都市めぐりの開催や休日夜間急病センターの移転等がありましたが、総事業費としては減となっております。

平成27年度は特別交付税措置を活用した帯広厚生病院等への運営費補助の増額と、水痘ワクチン、高齢者の肺炎球菌ワクチンの定期接種化などにより増となっております。

平成28年度は、日本脳炎の北海道における定期接種化による増、二次救急医療の委託料見直しによる減などにより全体として微減となっております。

下の円グラフは平成28年度の予算の構成比であります。夜間急病診療費23.9%、予防費が44.3%、保健衛生総務費28.0%、保健福祉センター費が3.8%の順となっており、予防費が前年と比べ大きくなっております。

次に、平成28年度の主な事業についてであります。資料の右側をご覧ください。はじめに、看護師、歯科衛生士等の人材育成ですが、帯広コア学園に歯科衛生士科が開設されるにあたり、校舎増築費の一部を補助するものです。また、子育てなどで離職した潜在看護師等を対象に行う訪問看護等の研修会の受講者募集のための周知をするものです。

次に、中学生に対するピロリ菌検査であります。中学3年生を対象に学校で尿検査によるピロリ菌検査を実施するものです。ピロリ菌は胃がんの主な原因であり、早期に取り組むことで胃炎などの予防や胃がんのリスクの大幅な減少が期待されます。

次に、日本脳炎定期予防接種であります。平成28年度より北海道も実施区域となりました。ワクチンの安定供給を図るために、北海道が示した考え方に従い、20未満の優先すべき対象者から年度ごとに段階的に進めるものです。説明は以上です。

○部会長

はい、ありがとうございます。ただいまの事務局の平成28年度健康推進課関係予算案についての説明ですけれども、何かご質問やご意見があればお受けいたします。

私の方から・・資料2のところの全体で、予防費のところ、がん検診・健康診査費が毎年だんだん減ってきているわけですね。このあたりはどういうことなのでしょう。

○事務局

主なものでお話しすると、平成21年度から国のクーポン事業をやっておりまして、これにつきましては、子宮、乳、大腸がんなど、がん検診の際、一定の対象者に対しまして、無料のクーポン券を配布し、それにより検診を促進する事業です。それが、ある程度一巡しまして、対象者が絞られてきてまして、来年度からは大腸はなくなりますし、子宮と乳に関しましては、新規に21歳、41歳など対象年齢になる方だけが対象となりましたので、そうした部分の事業費が縮小してきたことが影響しております。

○部会長

国の補助事業で含まれていた部分が多かったけれども、国の事業がなくなった分が減ったと、そういうことですね。それで新たな国の事業もないし・・そこを帯広市として独自事業をやるとか、それはないですか。

○事務局

そうですね、独自とかは・・今後国の方で、胃がん検診でいいますと内視鏡検査の取入れだとか、国がこういうことを取り入れなさいという方針が示されまして、来年度以降拡張していくという部分について検討していくことにしています。それ以外に独自で実施するということについては、考えておりません。

○委員

今のところ、制度上は胃カメラに振り替えられないですよ。胃のバリウムですよ。これからたぶん変わるだろうと言われていて、毎年バリウムを受けるよりも、ハイリスクの人は2、3年に1回内視鏡をする方がいい。それ以外の人は若い人でピロリ菌に感染してない人がバリウム検査する必要がないじゃないか、胃の検診そのものが不要だという・・たぶんこの先数年で、選択と集中という風になってくるということに。

ただ、気になるのは、大腸がんはまだ死亡者が増えています。国の事業がなくなったということですが、何年かに一回ということじゃなく毎年受けたほうがいい。単価が非常に安いはずですので、何か広く・・是非受けてもらうような色んな方式があってもいいのかなと思います。

○部会長

はい。意見ですのでよろしく願います。あと、いかがでしょうか。

○委員

救急医療対策費なんですけれども、平成27年度の半分ほどになっていますけれども、教えていただきたいと思います。

○事務局

夜間急病診療費の中の救急医療対策費の中の部分で27年度から減っている部分のお話しかと思いますが、この部分で大きな要因としましては、二次救急医療の部分で帯広市では二次救急を第一病院、協会病院、北斗病院さんに輪番制という形で実施しています。厚生病院さんについては別に補助ということで行っていますがそれ以外の病院さんには委託料という形で実施してまして、27年度に国の特別交付税の制度を活用しまして、委託料を増額させていただいた経過があります。実

は、27年度に増額をさせていただいたんですけど、28年度に向けて国が特別交付税制度を見直そうという動きになり、その中で、今まででいいますと、自治体の負担がほとんどない状態で支援できましたが、支援をする自治体がかかり負担を生じる制度になる見込みであります。そうした部分で昨年増額したところがありますけど、見直しさせていただいて、来年度に減額させていただくということで進めさせていただいているところがあります。以上です。

○部会長

よろしいですか。あといかがでしょうか。

○委員

ピロリ菌検査でもしひっかかった場合に除菌する場合ですけど、帯広市は助成とかあるんですか。

○事務局

今回、中学生に対するピロリ菌検査をさせていただくところがあります。ここに書いてあるとおり、一般的にはこの年齢で検査してみると5%程度菌を保有している生徒が出てくる形になるかと思いますが、今回の分につきましては、手がけさせてもらう部分で検査をさせていただいて、それぞれの中学生、保護者の方に自分がピロリ菌を持っているかどうかについて知ってもらう、啓発という部分から取り組んでいこうというものです。今回につきましては、まずは検査だけで除菌は予算化はされていません。ただ帯広市としましては、そうした部分で予算としては持っていませんが、それ以降の二次検査、除菌の部分について保菌者生徒、保護者の方への連絡等を行いながら、周知等進めていきたいと思っております。

○委員

スクリーニングの予算だけは初年度なのでということですが、これは1,400人を対象にということは、単価を僕知らないですけども、全員が受けるであろうということで、150万円ということですか。単価は千円くらい・・・ですか。

○部長

1学年1,400人の生徒がいっしょということ、希望者なんですけど、全員が尿検査をした場合、費用をみているということです。

ピロリ菌の部分につきましては、除菌まで含めてやるという方向を前提に、予算編成作業を進めていたんですけども、除菌の部分については、保護者を含めて・・・保護者の責任でやっていただくという部分が学校教育の中のひとつのルールになっておりますので、それに準じて、除菌のほうは保護者のほうに啓発をしてやっていただくということで、スタートさせていただきたいということで・・・こういう結果となってございます。

○委員

スクリーニングかけて、こないだの講演でもありますけれども、半数弱が擬陽性だろうということですから、尿素呼吸試験やって数%ひっかかった・・・最終的には5%ですか、陽性ということになるでしょうけれども、次の除菌については、薬を使うので、公費でやると副作用がおきた時に誰が責任持つかということになるでしょうから・・・必ず親御さんが理解して除菌をするかしないか決める立場にしないと・・・スタートのところは手探りなのかなと思います。

○委員

これについては、薬剤師会でやることになると思うんですけど・・・

○事務局

いまのところそれは、学校教育サイドで調整しています。

○委員

そのような話になってきているようです。私も学校薬剤師なので、今一般の検査も行っているの
で、それと一緒にということで、話がきていると思いますので、今のお話も踏まえて、学校の方と
お話をしていきたいと思います。

○委員

具体的な運用に向けて、関係機関と協議をこれからしていきたいと思いますので、ぜひ薬剤師会
へも連絡差し上げるような形で・・円滑な運用ができるように取り組んでいければと思っています
ので、どうぞよろしくお願いいたします。

あと、いかがでしょうか。

日本脳炎の接種はこれ、かなりの費用ですね。これまだ、初年度なのでどのくらいかというのは・・
どうなんでしょうか。

○事務局

接種率はどのようにみてるか。

○事務局

道のシミュレーションどおりで、対象年齢は優先すべき年齢から進めていきます。標準接種の 3
歳から 4 歳になるお子さんについては、90%ぐらいで推計をしています。そして 6 歳から 7 歳。実
際 7 歳は 7 歳半までなのですが、50%で見えています。18 歳、19 歳以上 20 歳未満のお子さんにつ
いては 5%ほどでみえています。

○事務局

ですから、標準接種の部分については、90%以上、それから 9 歳から 13 歳の 2 期は 50%・・

○事務局

2 期ではなく、6 歳、7 歳の 1 期が 50%です。

○事務局

20 歳未満については、ほとんどいないだろうということで、5%という計算をして、ある程度み
させてもらっています。たぶん、お子さんの予防接種ですので、麻しん風しんとかですと、90%近
いですから、それを参考にかなりの接種率になるのかなという予算をしています。

○部会長

よろしいでしょうか。なければ質疑を終了させていただきます。

次に、その他の議題について、事務局から、説明をお願いします。

○事務局

前回、健診の名称についてわかりづらいところがあるところのご指摘をいただきましたので、平成 28
年度から、市民健康診査の名称を 35~39 歳健康診査と名称変更する予定で進めております。

今後とも、改善すべき事項がありましたら、ご提案等よろしくお願いいたします。以上です。

○部会長

太田さんからのご指摘の部分ですね。それでよろしいですか。

○委員

結構です。前の説明にもありましたけど、予算によって健康診査も色々ありますけれども、これ
だけでは、見えないということですね。

○部会長

他になければ、全体としましてご意見、ご質問があればお受けしますけれども、よろしいですか。

なければ、最後に事務局からお願いします。

○事務局

予防接種の部分になりますが、今年の4月から北海道を含めて日本脳炎を実施させていただきますけれども、全国的な情勢としまして、今月2月5日に通知がきまして、B型肝炎の予防接種が今年の10月から定期接種化されるとの内容だったので、今回予算には間に合わなかったのですが、6月議会での補正ということになりますけれども、それに向けての準備ということになりますけれども、またご協力の程お願いいたします。

○部会長

あと、次回地域医療推進部会の日程についてはいいですか。

○事務局

親会の方ですが、審議会の委員さんの任期が今年で改選になる予定になっております。8月に親会の方が開かれる予定になっておりますので、それに伴いまして、必要な案件があれば部会のほうは開かせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○部会長

以上を持ちまして、本日の議題は全て終了させていただきましたので、閉会とさせていただきます。どうも長い間ありがとうございました。